

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 25 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 279-0011

所在地 千葉県浦安市美浜3-11-10

評価機関名 ヒューマンウェア・コンサルティング株式会社

認証評価機関番号

機構 02 — 032

電話番号 047-380-6263

代表者氏名 渡辺 昇

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
	①	横滝公市	経営	H0404093	
	②	佐藤 香織	福祉	H1301061	
	③	藤田久美子	福祉	H0701084	
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	多機能型事業所				
	☒ 生活介護				
	☐ 自立訓練(機能訓練)				
	☒ 自立訓練(生活訓練)				
	☐ 宿泊型自立訓練				
	☐ 就労移行支援				
	☐ 就労継続支援(A型)				
	☐ 就労継続支援(B型)				
評価対象事業所名称	マイファーム			指定番号	1311601072
事業所連絡先	〒	170-0013			
	所在地	東京都豊島区東池袋2-18-7 恵安ビル3階			
	TEL	03-6812-1358			
事業所代表者氏名	管理者 武岡進				
契約日	2024 年 8 月 1 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 26 日				
利用者調査結果報告日	2024 年 12 月 1 日				
自己評価の調査票配付日	2024 年 9 月 26 日				
自己評価結果報告日	2024 年 12 月 1 日				
訪問調査日	2024 年 12 月 2 日				
評価合議日	2024 年 12 月 2 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事業者の組織価値観に基づいて組織変革を促進し、独自の強みを発揮できる特徴的な組織として認識されるための課題を確認することを目的に、第三者評価制度の実施を位置づけています。本評価では、事業者の事業特性と事業環境、および組織の状態に基づき導出した、事業競争力の強化につながる重要方針すなわち重要成功要因について事業者と評価者とが共有しました。評価者はそれぞれの専門的観点を持って、重要成功要因に基づく評価の視点を明らかにし、全てのカテゴリーにわたる取り組みとその状態について評価しました。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 25 日

事業者代表者氏名 理事長 岩崎 香

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 法人理念 2) 理念・ビジョンに基づいた全職員間のコミュニケーションの機会創出 3) 自法人を取り巻く内・外部環境の正しい理解に裏付けられた戦略策定 4) 既存事業の見直しと新たなサービス連携の体系化（再構築） 5) 新規事業の展開を通じて、豊芯会の真の価値を実践、確かにする事で外部（利用者・地域）からの評価を得る
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 ○法人理念の実現に向け共に協働できること ○利用者一人一人のニーズや生活のしづらさに対する共感力を持てること ○利用者とその家族など関係者ならびに同僚上司とも信頼関係を築けること ○必要な手立てを組み立てて実行すること ○個別支援計画を中心に各職員の役割を理解しチームアプローチを向上することに協働できること
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ○意思の尊重と意思決定支援の視点を持つこと ○望む地域で幸せに生きていく事をサポートしようと思えること ○内在する能力や可能性を信じ、発揮することを支えること ○リーダーは組織として取り組む軸の中心となり、支援の向上に努めること ○広い見識を持とうと努力し、地域のさまざまな人や資源を繋げ合わせる行動力と地域社会を作る想いを持てること

調査対象

当該事業を継続的に利用している方と今年度新規利用した生活介護16名と生活訓練11名、計27名の利用者を対象に、アンケート調査を実施しました。

調査方法

事業所が利用者に第三者評価の趣旨説明を行った上で、個人情報保護の視点から調査票と返信用封筒を事業所から発送しました。回答アンケートは直接評価機関へ郵送・回収し、分析しました。

多機能型事業所全体

利用者総数

	27	
アンケート	聞き取り	計
27	0	27
23	0	23
85.2	0.0	85.2

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

生活介護

利用者総数

	16	
アンケート	聞き取り	計
16	0	16
15	0	15
93.8	0.0	93.8

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

入力不要

自立訓練(機能訓練)

利用者総数

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

自立訓練(生活訓練)

利用者総数

	11	
アンケート	聞き取り	計
11	0	11
8	0	8
72.7	0.0	72.7

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

入力不要

宿泊型自立訓練

利用者総数

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

入力不要

就労移行支援

利用者総数

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

入力不要

就労継続支援(A型)

利用者総数

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

入力不要

就労継続支援(B型)

利用者総数

アンケート	聞き取り	計
		0
		0
0.0	0.0	0.0

共通評価項目による調査対象者数

共通評価項目による調査の有効回答者数

利用者総数に対する回答者割合(%)

利用者調査全体のコメント

生活介護に対する総合満足度は、大変満足33.3%、満足60%あわせて93.3%の方が満足と評価している結果でした。
自由コメントでは、職員体制についての意見が寄せられています。

生活訓練に対する総合満足度は、大変満足37.5%、満足25%あわせて62.5%の方が満足と評価している結果でした。
自由コメントでは、体調面と工賃に関する意見が寄せられています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				

1. 利用者は困ったときに支援を受けているか	21	0	2	0
91.3%の方が「はい」と回答しています。				
2. 事業所の設備は安心して使えるか	17	4	1	1
73.9%の方が「はい」と回答しています。				
3. 利用者同士の交流など、仲間との関わりは楽しいか	18	3	2	0
78.3%の方が「はい」と回答しています。				
18. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	21	2	0	0
91.3%の方が「はい」と回答しています。				
19. 職員の接遇・態度は適切か	19	3	1	0
82.6%の方が「はい」と回答しています。				
20. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	21	2	0	0
91.3%の方が「はい」と回答しています。				
21. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	17	3	2	1
73.9%の方が「はい」と回答しています。				

22. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	18	3	2	0
78.3%の方が「はい」と回答しています。				
23. 利用者のプライバシーは守られているか	19	4	0	0
82.6%の方が「はい」と回答しています。				
24. 個別の計画作成時に、利用者の状況や要望を聞かれているか	17	5	1	0
73.9%の方が「はい」と回答しています。				
25. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	17	6	0	0
73.9%の方が「はい」と回答しています。				
26. 利用者の不満や要望は対応されているか	18	4	1	0
78.3%の方が「はい」と回答しています。				
27. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	13	6	4	0
56.6%の方が「はい」と回答しています。				

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
4.【生活介護】 事業所での活動は楽しいか	12	2	1	0
80%の方が「はい」と回答しています。				

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
6.【自立訓練（生活訓練）】 事業所での活動が生活する力の向上に役立っているか	7	1	0	0
87.5%の方が「はい」と回答しています。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目		
	カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定		
	サブカテゴリ1(1-1)		
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	☐ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	☐ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	☐ 非該当
	カテゴリ1の講評		
	新たなコンセプトに基づいて、職員主体で個別支援の充実や生活の活性化を図っています 法人のビジョンと事業特性を踏まえたビジョンを掲げて、個別支援の充実や生活の活性化を図り、より利用者の自立を支援するというサービス方針の転換を目指して、新たなコンセプトに基づいたプログラムやアセスメントシートなどを職員全員で見直しサービス体制の再構築に取り組んでいます。毎月のミーティングで全職員とその考え方や目的を確認しながら、利用者自身が必要と思うプログラムを職員の専門知識も入れて企画したり、看護師や栄養士も協力して利用者自身が健康をいじめるような支援に取組むなど、サービス方針の転換を図っています。 個別支援計画の作成やプログラムを通じて、利用者と施設方針の共有を図っています 利用者の自立に向けた事業所の個別支援の充実はもとより、利用者自身が自立して社会生活が継続ができるように、自立訓練では計画的に自立訓練に取り組めるよう行動プランを利用者と一緒に考え、アセスメントシートも社会生活の基盤となる4カテゴリをアセスメントし、利用者の就労に向けた意識化を図っています。生活介護もプログラム内容の見直しから利用者主体の活性化が図られるよう個別支援計画の見直しが行われています。これらの活動を通じて利用者と施設の考えを共有していますので、今後は保護者とのコンセプト等の共有が期待されます。 家族や利用者支援の関係先と新たなサービス体制の理解を深めることが期待されます 利用者自身が自立して社会生活が継続ができるように、個別支援の活性化のために支援員及び看護師と栄養士を含めた全職員が新たなプログラムの展開や支援計画とモニタリング、アセスメント評価の見直しをすることで、利用者の自立を段階的に支援することにつながっています。今後もこれらのサービス体制を強化するためには、家族や利用者支援の関係先と新たなプログラムのコンセプトやアセスメントの考えや方法などについて、互いに理解を深めて行くことは課題であり、今後のさらなる協力体制づくりが期待されます。		

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	☐ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	☐ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー2の講評		
法人の戦略を踏まえた事業課題と一貫性のある事業計画が策定されています 法人の理念とビジョンを実現する考えに基づいて、事業環境及び利用者ニーズの変化と各事業の課題を分析して、法人戦略と目標が策定され、それをもとに当該事業の事業計画では、事業所ビジョンと戦略課題が策定されています。また事業計画に掲げた戦略課題が実現できるように実行計画が策定され、具体的取り組み内容と責任者、達成を確認するプロセス及びアウトカム指標を設定することで、法人の戦略から各事業のビジョン・戦略課題の一貫性と実現可能な事業計画を策定するプロセスが構築されています。 実行計画を着実に展開する取り組みのほか、法人戦略課題を各委員会が推進しています 各事業所で策定した実行計画を着実に展開するために、法人内の各事業の管理者が参加する会議体での振り返りのほか、事業所内の会議において、全職員参加で定期的に達成度を確認し次の取り組み内容を検討して、実行計画を着実に展開するようにしています。また法人の戦略課題にある例えば、人材育成や地域貢献活動、リスクマネジメントや権利擁護・虐待予防などの課題は、それぞれを推進する委員会やプロジェクトチームを設置して、計画的に活動したり必要とされる組織の仕組みづくりを進め、その進捗についても事業間で共有し展開を図っています。 全職員がそれぞれの役割を認識して、サービス体制の課題への取り組みを進めています 今年度から新たな組織体制になり、今年度の事業計画がありますが、中期的な考えのもとでサービス体制の再構築という課題に注力しています。この方針は管理者と全職員との合意のもとに展開されており、例えば利用者自身が自立を目指すプログラムの企画や展開、そのための個別支援計画とアセスメントの見直しのほか、プログラムを展開する職員体制の見直しと休憩時間の確保、新規利用者の受け入れ基準の明確化、利用者主体の利用者ミーティングの見直しなど、全職員がそれぞれの役割を認識して課題への取り組みを進めています。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリ-3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリ3の講評

利用者と地域社会から信頼される倫理行動を促すように取り組んでいます

利用者や地域から職員の倫理行動が求められるという観点から、入職時の研修や階層別研修等で倫理行動の周知を図るほか、利用者ミーティングや第三者評価の利用者調査で収集した利用者の意見や要望に真摯に対応するようにしています。また利用者のプライバシーや個人情報等の保護、苦情解決制度については、利用開始時の面談で重要事項説明書に基づいて説明し承諾を得ています。苦情解決制度は事業所内に掲示し、寄せられた苦情や意見等には、第三者委員を含め苦情対応マニュアルに沿って適切に対応し信頼性を確保するようにしています。

利用者の権利擁護や虐待防止に適切に対応するための仕組みを整備しています

利用者の権利擁護に関する職員の意識向上に向けて、虐待防止委員会が中心となって、権利擁護や虐待防止に関する研修と不適切なケアや支援防止のチェックを定期的の実施してその周知を図り、虐待を確認した場合には障害者虐待防止センターと連携して対応する体制を整えています。また権利擁護チームでは、職員のストレスチェックを実施して対策を検討しているほか、教育人材チームでは、新人研修・中堅研修に分かれて実施したり、職員同士の適切なコミュニケーションを促すための社労士によるハラスメント研修を計画しています。

地域との関係性をつくり、利用者の地域交流や貢献活動につなげるようにしています

利用者が地域の一員として生活するために、事業者が地域の商店会や町会と良好な関係をつくり、地域イベントの開催情報を収集して利用者が参加しやすいように、職員が呼びかけて社会参加の機会をつくるようにしています。具体的には、町会イベント地域の犬塚商人祭りに利用者が参加したり、様々な立場の団員が一体となって活動することを目指して生まれた劇団の演劇に利用者と職員が参加して地域社会との交流をしています。またクリーンプロジェクトとして事業所近隣の道路の清掃(ゴミ拾い)を利用者の参加のもとで実施し地域に貢献しています。

4 カテゴリー4		
リスクマネジメント		
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評		
利用者の生活上で起こりうるリスクに対し、適切に対応できるように支援しています 利用者の生活上で起こりうる感染症、地震や台風等の自然災害、火災・盗難等の人災に対応できるように、例えば事業所において火災や災害に備えた避難訓練を定期的実施したり、近隣地域の防犯情報を収集して利用者の防犯対策に活用しています。また利用者の健康維持をリスクと考え、新たなプログラムによる身体機能の維持向上と、看護師によるナースの時間での感染症予防や健康状態の聞き取りと助言、管理栄養士による食生活の助言やクッキングを実施して、ヒヤリハットの仕組みでも利用者個々のリスクに関する支援の改善を図っています。 個人情報を取り扱う際や情報を共有・管理する際は外部に漏れないように配慮しています 利用者の個人情報保護については、利用者支援に必要とされる受給者証やおくすり手帳、医療関係等の情報のほか、個人に関わる書類に関してもセキュリティに配慮して管理しています。利用者の個人情報を外部とやり取りする必要がある場合には、契約時に「個人情報取り扱いの同意書」にて同意を得ており、実際にやり取りする場合も同意を得ています。また利用者と個別の話し合いが必要な場合には、他の方がいない場所で話をすることを徹底したり、職員間で利用者の状態や支援内容を話し合う時も外部に漏れないように十分注意しています。 BCP(事業継続計画)を職員研修と訓練で周知し問題点の対策を検討しています 事業経営の継続に深刻な打撃を与えるような大きな災害を含めたリスクが発生した場合に、被災後に人員体制やインフラなどの経営資源を確保しつつ、どのような段階を踏んで事業継続していくか明文化したBCP(事業継続計画)については、BCP策定委員会を設置して策定しています。BCPに基づいて職員が適切な行動が出来るように、職員の入れ替わりによるBCPの修正や研修と訓練を実施して、振り返りの中で例えば停電時の電源の確保や休日に震災が発生した場合の職員の確保などの問題を把握し、今後の対策の検討を進めています。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇●●●)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☐ あり ☒ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3 / 3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当
カテゴリー5の講評		
職員のキャリアパスと個人別育成計画の展開が期待されます 人材教育チームが中心となって、倫理やマナーに関わる研修を企画実施するほか、勤続年数別に新人・新人系・中堅・ベテランの研修体系をつくり、新人職員研修では法人の歴史から学んだり、中堅職員研修では事業所の中での自分の立ち位置や求められる役割を学ぶ機会のほか、事業部を超えて意見交流の場になっています。職員のキャリアパスに関しては人材教育チームが人事考課と関連した仕組みづくりに取り組んでおり、作成内容は職員に適時提示しながら進めています。今後、職員一人ひとりの育成計画を含めて進展させていくことが期待されます。 職員がサービス体制の再構築に向けた活動成果を全体で称賛する仕組みが期待されます 法人として職員の定着に向けて、職員を孤独にしないことを目的にメンター制度を導入し、職員自身がメンターとの面接時間を確保できるように支援しています。また定期的に職員意識調査を実施し、職員の組織に期待することや満足要因を把握して次の課題に取り組むようにしています。当該事業では、新たなコンセプトに基づいたプログラムの発案やアセスメントの新たな仕組みづくり、看護師と管理栄養士の健康サポートなど、全職員が利用者ニーズに合わせながらサービス体制の再構築を進めていますので、それらの成果を称賛する取り組みも期待されます。 事業所ビジョン実現で求められる職員のスキルを育成計画で支援することが期待されます 事業所ビジョン実現に必要な質の高いサービスの提供と地域福祉の推進を図るうえで、今後強化すべき職員の知識や能力には、精神しょうがの理解とリハビリテーションスキル、社会生活機能訓練SSTの技法とSSTの実践力、チーム連携についての理解、対人関係の保持や作業能力の保持の実技指導スキル、処方箋の理解と支援記録のスキルなど、多岐にわたっています。今後、職員の特性や役割などに応じて、職員の意向を反映しながら個人別育成計画に取り込んで、研修受講の支援や必要なサポートをしていくことが期待されます。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
				サブカテゴリ1(7-1)
				事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
				評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
				前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
				【課題・目標】 ①「個別支援」等仕事楽しく出来ているかを考えながら方策を見つける ②生活介護の利用者に合わせた支援、地域生活を実施する ③法人内外との連携を通じた地域に求められる事業展開の明確化する 【取り組み】 ①業務マニュアルの読み合わせ。ピアカウンセリング本の読み合わせ。各支援ツールシートを順次使用 ②車椅子送迎実施。運動習慣定着支援事業申し込み。運動ステッパ開始。重度障害に関する検討 ③地域行事のスポーツ交流会・町会祭りに複数参加 【取り組みの結果】 ①職員間で良い支援や困りごとを出し合い対話する時間を持つことが継続的にできた ②全利用者の事例検討を行なうことができた ③地域包括に直接係る活動は生活介護事業として取り組むには難しさがあった。 【振り返り(検証)・今後の方向性】 ①職員間のコミュニケーション向上やチーム連携・支えあい、安心感、モチベーションの維持向上を目指す ②シートを活用して支援の現状や新しい発見を確認し、支援効果や支援方針を見つける ③創作的活動等の自由活動の充実を促進する為、既存プログラムの見直しを行う
	目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった		
	取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
	検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
				評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 法人が目指す理念とビジョンの実現に向けて、事業計画に前年の振り返りと事業方針を踏まえて生活介護における事業課題として設定し、職員の個別支援等に対するモチベーションアップとチーム連携を目標として、計画的な活動がなされています。取り組みの成果は、それぞれの活動の実施というアウトプットだけでなく、取り組みのねらいに沿った取り組みが職員の意欲向上につながっているかアウトカム成果を確認するようにしています。活動成果の振り返りが事業計画策定プロセスの中で行われ、継続的な課題設定のもとで、取り組みテーマを変えてさらに展開していくようにしていますので、事業課題の目的に基づいたPDCAサイクルが回っているといえます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】

- ①「個別支援」等仕事楽しく出来る方策を見つける
- ②自立訓練の事業内容の検討及び見える化を図る。また事業展開の明確化と連携体制構築を目指す
- ③数値面の把握を通して法人内外事業を見つめていく。地域の求められる事業展開の明確化する

【取り組み】

- ①業務マニュアル+ピアカウンセリング本の読み合わせ。休憩の在り方意見交換。各支援ツールを順次使用
- ②法人連携マップを制作開始。事業所パンフレット再編集。利用終了時点の統計
- ③グラフ資料を通して地域ニーズの掘り起こしを行い、地域ニーズの一部を共有した

【取り組みの結果】

- ①職員間で良い支援や困りごとを対話する時間を持つことができたが、休憩の在り方は課題
- ②支援者の視点の広がりには効果的だが、利用者からの評判を欠いた
- ③グラフ資料を通して地域ニーズの掘り起こしを行い、地域ニーズの一部を共有

【振り返り(検証)・今後の方向性】

- ①職員間のコミュニケーション向上とシートを活用して支援の現状や新しい支援効果や支援方針を見つける
- ②生活訓練事業の充実を促進する為、既存プログラムの見直しを行なう
- ③地域ニーズを把握し、そのニーズの把握に努めることとする

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

法人が目指す理念とビジョンの実現に向けて、事業計画に前年の振り返りと事業方針を踏まえて生活訓練における事業課題として設定し、職員の個別支援等に対するモチベーションアップとチーム連携を目標として、計画的な活動がなされています。取り組みの成果は、それぞれの活動の実施というアウトプットだけでなく、取り組みのねらいに沿った取り組みが職員の意欲向上につながっているかアウトカム成果を確認するようにしています。活動成果の振り返りが事業計画策定プロセスの中で行われ、継続的な課題設定のもとで、取り組みテーマを変えてさらに展開していくようにしていますので、事業課題の目的に基づいたPDCAサイクルが回っているといえます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目 (カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
コンセプトを明確にした上で地域への情報発信の工夫をしていくことが期待されます 自立訓練に加え、実践例の少ない高齢化した障がい者の在宅生活を支援していくための生活介護事業を行っており、利用希望者に対しては2種類のパンフレットを作成して情報の提供を行っています。現在プログラムの内容の見直しに伴い、新たなパンフレットの作成に取り組んでおり、作成後改めて相談支援事業所や医療機関、訪問看護事業所等への配置依頼やホームページの更新を考えています。事業所課題としても地域に求められる事業展開の明確化をあげていることから、事業コンセプトを明確にしたうえで地域に対する情報発信の工夫が期待されます。 一定の受け入れ基準を設定し、見学・体験を通して継続的な利用につなげています 見学の希望があった場合には、日程調整をするなどして柔軟に対応しています。自立訓練では見学後は3日間の体験を経て体験後の振り返りを行い、申請後に適否を内部で検討して利用につなげています。これまで受け入れに当たっての基準が明確化されていなかったため、利用の継続が可能な方を対象とする方針から週2回以上の利用と半日以上の利用が可能な方を受け入れ基準としています。見学時には見学受付シートや体験申し込みシートに記入していただき、自立訓練を利用する目的の把握や事業所としての対応方法等を記録し職員間で共有しています。			
	サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり利用者等に説明し、同意を得ている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を利用者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、利用者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、利用者や家族等の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、利用者の支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、利用者の不安やストレスが軽減されるように支援を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. サービスの終了時には、利用者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
利用開始に当たっては説明と同意を得、利用者・家族の意向の把握に努めています サービスの開始に当たっては利用者や家族に基本的ルールや重要事項説明書、契約書、個人情報同意書等を説明し同意を得ています。特に生活介護の入浴料金、自立訓練の食事代金等の利用料金についての説明や、苦情・虐待についての通報先は明確に説明をしています。フェイスシートにより利用者の状況を把握する他、申込書等で利用者・家族の意向を聞き取っています。利用者のニーズと家族のニーズに違いが生じることも多くその場合には調整を図っていますが、今後も時間をかけてすり合わせを行い、さらに利用者の意思決定を尊重する支援が期待されます。 サービス提供記録で利用者・職員のコメントを共有しコミュニケーションを図っています 利用開始直後に利用者の不安やストレスが軽減されるよう、日中活動時の声掛けを多く持つようにしています。利用者に向き合う中で変化やニーズを感じ取り、利用者が言葉に出しにくい事を感じ取る感性を養うよう職員に期待しており、毎日のサービス提供記録で利用者・職員双方からのコメント欄を設けて職員の気づきを必ず記入するように努めています。サービス終了時には、特に自立訓練は利用期限が2年と限られている中で、体調不良による終了や生活介護への移行、就労型への移行等いずれの場合も相談事業所と連携して生活の継続性に配慮しています。			
サブカテゴリー3			
3	個別状況に応じた計画策定・記録		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 10/10
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、利用者の課題を個別のサービス場面ごとに明示している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		☐ 非該当
評価項目2 利用者等の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 計画は、利用者の希望を尊重して作成、見直しをしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している		☐ 非該当

評価項目3 利用者に関する記録が行われ、管理体制を確立している			評点(〇〇)		
評価	標準項目				
☒ あり ☐ なし	1. 利用者一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある			☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果利用者の状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している			☐ 非該当	
評価項目4 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している					
評点(〇〇)					
評価	標準項目				
☒ あり ☐ なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している			☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、利用者に変化があった場合の情報を職員間で共有化している			☐ 非該当	
サブカテゴリー3の講評					
支援の方向性の転換を目指してサービス体制の見直しに取り組んでいます 個別支援の充実や生活の活性化を図り、利用者の自立を支援するというサービス方向の転換を目指して、アセスメントシートやプログラムの見直しなどのサービス体制の再構築に取り組んでいます。自立訓練では計画的に自立訓練に取り組めるよう行動プランを利用者と一緒に考え、アセスメントシートも体調・生活面、コミュニケーション面、作業理解面、作業集中力面の4カテゴリーをアセスメントし、就労に向けた意識化を図っています。生活介護もプログラム内容の見直しから心身機能の活性化が図られるよう個別支援計画の見直しが行われています。 アセスメント、個別支援計画、モニタリング等の定期的な見直しが行われています 個別支援計画作成時には相談事業所と共にケア会議を実施し、連携して支援しています。個別支援計画書では利用者本人の目標と目標実現のための事業所の支援方針を明確化しています。特に自立訓練では2年という括りがあるため、3か月ごとの仮目標から段階的な見直しを立てて支援しています。行動プランとしてニーズに対し本人のすること、期待できる効果、サービス内容等を明確化しています。自立訓練では3か月、生活介護では6か月ごとにモニタリングを行い、モニタリングに合わせてアセスメントを見直し、個別支援計画の見直しにつなげています。 朝礼及び定期的なミーティングで利用者状況に関する情報を共有する体制が整っています 利用者サービスの方向性を転換していくことを目指していますが、コンセプトを含め職員と共有化しながらサービス体制を見直すことに重点をおいて取り組んでいます。また利用者の意向をアンケートで把握するなど、利用者や職員の合意形成のもと事業所の運営方針やプログラムの見直しに取り組んでいます。利用者個々の状況に関する情報は個人記録に加え朝礼及び定期的なミーティングで共有するほか、ケア会議で相談支援専門員を交えて話し合い、特に生活介護の利用者については課題の多い方を中心に事例検討して最適な支援方針を決めています。					
サブカテゴリー5					
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重			サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 利用者のプライバシー保護を徹底している					
評点(〇〇〇)					
評価	標準項目				
☒ あり ☐ なし	1. 利用者に関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、利用者の同意を得ようとしている			☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	2. 個人の所有物や個人宛文書の取り扱い等、日常の支援の中で、利用者のプライバシーに配慮した支援を行っている			☐ 非該当	
☒ あり ☐ なし	3. 利用者の羞恥心に配慮した支援を行っている			☐ 非該当	

評価項目2 サービスの実施にあたり、利用者の権利を守り、個人の意思を尊重している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(利用者が「ノー」と言える機会を設けている)	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
利用者の意思決定を尊重するためコミュニケーションの取り方に工夫をしています 利用者の意思決定を尊重するため、日ごろから利用者とのコミュニケーションの取り方に工夫をしています。例えば言葉で理解の難しい方にはメモ書きを渡したり、決めることが苦手な方には資料を渡してゆっくりと理解を促し、情報を得るためにパソコンを一緒に見たりスマホの操作を手伝うなど、利用者の特性に合わせたコミュニケーションを心がけています。また定期的に利用者ミーティングを開催し、プログラム内容についての要望を聞き取ったり、マスク着用、開始時間、物品の譲渡に関するルールなど生活面でのルールについて利用者間で決定しています。 価値観や生活習慣に配慮しながら、特技を活かして役割を発揮できるよう支援しています 利用者の意思を尊重し、日中活動は個々の利用者が選択して参加しています。また遅刻早退を承認したり、通所時間を自分で設定するなど生活習慣に配慮した支援を行っています。日記を書く習慣のある方に対し文字を書くことに着目して書道をしていただき作品を掲示したり、外出プログラムで行先の交通経路を調べたり予約を取ってもらうなど、利用者の得意なことを活かして役割を発揮できるように支援しています。今後さらに利用者とのコミュニケーションの中から得た価値観や生活習慣を記録に蓄積していくことで支援の幅を広げていくことが期待されます。			
サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			
		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている			
		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	

サブカテゴリ6の講評

管理体制の交代に伴い実態に即したマニュアルとなるよう見直しが進められています

サービスの基本事項や手順書の作成・見直しに当たっては、職員ミーティングでの意見や提案を受けて行っているほか、利用者ミーティングでの話し合いの中からルールを更新を行っています。管理体制が交代したことからマニュアルの整備に取り組んでいます。例えば入浴や食事、送迎等の利用者支援に関わるマニュアルについては実態に即したものとなるよう見直しを行いました。また業務を洗い出し必要なマニュアルや手順書の点検も行っています。今後職員が確認したり振り返りを行いやすくするためにファイリングの工夫が必要と思われます。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー4	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	27 / 27
1 評価項目1 個別の支援計画等に基づいて、利用者の望む自立した生活を送れるよう支援を行っている				
評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいて支援を行っている			○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりに合わせて、コミュニケーションのとり方を工夫している			○非該当
●あり ○なし	3. 自立した生活を送るために、利用者一人ひとりが必要とする情報を、提供している			○非該当
●あり ○なし	4. 周囲の人との関係づくりについての支援を行っている			○非該当
評価項目1の講評				
利用者本人の意思と現状を見極め、目標に向かってチャレンジすることを支援しています 利用者自らが目標を達成できるようにするため段階的に支援し、チャレンジできる環境を整えてサポートしています。例えば体力や金銭管理などの不安により公共交通機関を利用しての通所が難しく事業所送迎で通所されていた方が、ステッパーを踏むなどの健康活動で体力強化をし、利用者自身が望む自力通所へのチャレンジをサポートしました。周囲からは心配の声があがっても利用者本人の頑張りを評価して支援することで、本人が望む自力通所が実現し、目標達成と更なる意欲の向上に繋がっています。 利用者個々の状態に合わせて、情報提供やコミュニケーションの取り方を工夫しています 漠然としがちな利用者本人の目標に対し、質問しながら丁寧に聞き取りを行うことで、目標を明確化して意欲を引き出せるように支援しています。必要な情報は掲示板を用いていつでも全体に情報がいきわたるようにすると共に、個別に必要な情報をメモで渡したり、一緒にパソコンやスマートフォンで検索したり、ガイドブック等を持ち帰ってじっくり確認できるようにするなど、個々に必要な情報の提供と伝え方、コミュニケーション方法に工夫をもって支援しています。 利用者が主体的に他者との交流が図れるような支援の展開が期待されます 口数が少ないなどの利用者特性から、個別支援で職員との関わりが多くなる傾向があります。外出を含めた様々なプログラムは、マンネリ打破とコンセプトの明確化を目的に大きな見直しが行われています。例えば外出プログラムは、普段は行かれない所に集団で行って楽しむだけでなく、利用者が役割分担をして準備をすることで、他者を意識したり自分の存在意義を実感したりすることができ、社会生活を行う上で必要なコミュニケーションに関する経験の積み重ねに繋がると考えられます。新たなプログラムでの効果的な支援の展開が期待されます。				
2 評価項目2 利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている				
評点(〇〇〇〇)				
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 利用者一人ひとりの意向をもとに、その人らしさが発揮できる場を用意している			○非該当
●あり ○なし	2. 事業所内のきまりごとについては、利用者等の意向を反映させて作成・見直しをしている			○非該当
●あり ○なし	3. 室内は、採光、換気、清潔性等に配慮して、過ごしやすい環境となるようにしている			○非該当
●あり ○なし	4. 【食事の提供を行っている事業所のみ】 利用者の希望を反映し、食事時間が楽しいひとときになるよう工夫している			○非該当

評価項目2の講評		
利用者が主体的にプログラムに参加できるように、プログラムの再整備を行っています プログラムについては利用者の声をアンケートで把握して、「筋カトレニング」「ソフト筋カトレニング」「軽運動」「脳トレーニング」「創作的活動」「清掃」「フロア」の категорияに分け、利用者自身が必要と思うプログラムを職員の専門知識も入れて企画しています。寝たきりになりたくないという思いからステッパーを使って筋カトレニングをしている方もいます。筋カトレニングをする人が増え、歩けるようになったり入院が減ったりと成果が見られ、利用者の自信にも繋がっています。 利用者の意思、自己決定の尊重と活動量のバランスを意識した支援が行われています 利用者ご本人の意思や自己決定を尊重することで活動量の低下が心配される利用者も見受けられますが、個々の特徴や意向に沿い、強みを活かし主体的にプログラムに参加できるように工夫しています。例えば得意なおセロにしか参加できない利用者に対して、ハンデをつけての参加や解説・実況を担当するなどの役割を持つことで、個々の特性や意向に沿いつつも自ら納得して主体的にプログラムに参加できるように支援することで、活動量が低下しすぎないようにしています。 利用者ミーティングで話し合い、ルールの確認や周知が行われています 定期的に行われる利用者ミーティングでは、職員からのお知らせや議題を提示して行われますが、利用者からの意見をもとに話し合ってルールを決めたり、決められたルールの周知をしたりしています。ミーティング時の内容の理解を促し参加しやすくするために、スクリーンにパソコン画面を投影して注目できるようにするなどの工夫をしています。内容によっては利用者の意見が分かれてしまうこともあります。が、多数決などでルール化した事柄については全員が理解できるように説明し、不参加だった方にも議事録を配布することで周知と理解を求めています。		
3 評価項目3 利用者が健康を維持できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の健康状態に注意するとともに、利用者の相談に応じている	○非該当
●あり ○なし	2. 健康状態についての情報を、必要に応じて家族や医療機関等から得ている	○非該当
●あり ○なし	3. 通院、服薬、バランスの良い食事の摂取等についての助言や支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 利用者の体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	5. 【利用者の薬を預ることのある事業所のみ】 服薬の誤りがないようチェック体制を整えている	○非該当
評価項目3の講評		
毎月の「ナースの時間」や面談など、看護師による健康啓発活動が行われています 月に1回行われる「ナースの時間」では、フレイル予防や感染症予防など季節に合わせたテーマでの健康に関する勉強会が行われており、毎月参加者が多く人気の高いプログラムの1つとなっています。看護師による個別面談はバイタル・体重・薬の飲み忘れなどの他、金銭管理などを含めた生活の課題がある方に対して、聞き取りや助言が定期的に行われると共に、利用者自らが体調に不安を感じた時に気軽に相談できるようにしています。 管理栄養士による栄養相談や助言が定期的に行われています 月に一度、管理栄養士が来所して生活上の食事の大切さや、健康的な食事の組み合わせや食べ方など、気軽に会話をしながら個別の相談に応じています。また糖尿病や水中毒など、健康課題のある方に対しては個別指導を行っています。更に午後からは利用者と一緒にのクッキングタイムでおやつ感覚の料理指導も行われ、利用者にとっては月に一度のお楽しみの時間となっています。 年を重ねていく先を見据えた健康管理支援を行っています 利用者が健康で主体的に生活できることを目指して筋カトレニングや脳トレーニングなど、今年度からの活動内容が再考されました。家族が先に他界してしまい年齢を重ねた利用者が独居となるなど、家族環境の変化に応じて通院同行が必要となるケースもあります。看護師による健康に関する取り組みの他にも、健康に関する内容が多い情報提供の掲示板で、利用者の健康意識を高めています。また日々のバイタルチェックでは問題が無い方でも今からしっかり記録に残しておくなど、先々の健康を見据えた健康管理・健康支援を行っています。		

4	評価項目4 利用者の意向を尊重しつつ、個別状況に応じて家族等と協力して利用者の支援を行っている 評点(〇〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている	○非該当	●あり ○なし	3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている	○非該当
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 家族等との協力については、利用者本人の意向を尊重した対応をしている	○非該当											
●あり ○なし	2. 必要に応じて、利用者の日常の様子や施設の現況等を、家族等に知らせている	○非該当											
●あり ○なし	3. 必要に応じて家族等から利用者・家族についての情報を得て、利用者への支援に活かしている	○非該当											
	評価項目4の講評 利用者及び家族の高齢化に伴い、相談支援事業所との連携強化に努めています 利用者の高齢化に伴い家族は更に高齢化が進んでいる現状があります。相談支援事業所とはサービス担当者会議のみではなく、個別のプランを同じ方向性をもって一緒に進めていけるようにと、事業所発信のケア会議を開催することもあります。ご家族と相談支援事業所との連携の中で、例えば母親の見守りによって外出をしていた強度行動障害がある方に対し、母親以外との行動ができるようになることを目指し、社会資源を利用しての外出支援などが行われています。 利用者個々の状況に応じ、利用者と家族双方の意向を尊重した支援を心がけています 利用者本人と家族が疎遠でない限り、事業所としてご家族との連絡は密に行うようにして連携を図っています。例えば通院報告などは利用者本人からだけでは状況の理解が難しいこともあるため、家族から状況や意見を聞き、利用者の状態把握と理解に努めています。また、ケア会議では家族の意向が強く出やすい傾向がありますが、事業所では利用者本人の意思表示を待ち、聞き、双方の折衷案の提示を行うなどして、利用者・家族共に意向に沿った挑戦ができるように支援しています。												
5	評価項目5 利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている 評点(〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている	○非該当			
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 利用者が地域の情報を得られるよう支援を行っている	○非該当											
●あり ○なし	2. 利用者が地域の資源を利用し、多様な社会参加ができるよう支援を行っている	○非該当											
	評価項目5の講評 利用者の生活環境に応じ、地域で暮らすための支援を行っています ゴミ出し方法など生活に必要な事柄の急な変更や、マイナンバー保険証への移行のような社会の変化など、生活する上での困りごとは日常的に発生します。それらに対して説明したり付き添ったりしながら、また掲示板などを活用して情報提供を行いながら、利用者が地域で自立した日常生活を送り続けることができるように支援しています。 情報掲示板を用いて地域イベントなどの情報発信をし、個々が地域活動に参加しています 事業所として事業所周辺地域の町会に参加はしていませんが、利用者個々が住まいの近くの町会に参加したり、社会福祉協議会主催の勉強会や講演会、ピアサポートなど様々な活動に参加しています。それらの活動に参加するための助けとなるよう、事業所内の情報掲示板に様々な案内の掲示を行っています。例えば「掃除をしてその後にコーヒーを飲みませんか？」というような若い人の自発的サークル活動のようなものもあり、興味をもった利用者が自ら主体的に地域に関わる余暇活動を楽しんでいます。												

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

6 評価項目6		
【生活介護】日常生活上の支援や生活する力の維持・向上のための支援を行っている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 一人ひとりの目的に応じた創作的活動、生産活動やその他の活動の支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 自分でできることは自分で行えるよう働きかけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 食事、入浴、排泄等の支援は、利用者の状況やペースに合わせて行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 【工賃を支払っている事業所のみ】 工賃等のしくみについて、利用者に公表し、わかりやすく説明している	☐ 非該当
評価項目6の講評		
年齢や特性に応じた活動プログラムの提供と支援を行っています 利用者の高齢化が進み年齢の高い利用者は80歳を超えました。新しいコンセプトに基づき活動プログラムの再構築を行う中で、年齢的にアクティブな活動が難しい方がゆったりと過ごすための音楽などの活動は残しながらも、50歳代など比較的若い世代の方のために筋力トレーニングや脳トレーニング、創作活動などのアクティブな活動を行っています。必要に応じて入浴の見守り支援も行っています。年齢を重ねても入院することも命を落とすこともなく、外で活動して生活できていることは、健康寿命を強く意識した支援の成果と考えられています。 事業所を単なる居場所とせずに、利用者が挑戦し続けられるように支援しています 年齢が進む程、住まいの場以外の居場所は大切です。安心して寛ぎ、落ち着いて過ごすことができる居場所としての事業所の役割は重要ですが、単なる居場所にはしたくないと考えています。安心安全な居場所で体が衰えてしまつては意味がありません。居場所ではあっても少しでも健康な生活が続けられるように目的を持ち、やりたいことややり残したことなどについて主体的に考え、いつの時点からでも挑戦してほしいと考えて応援と支援をしています。それらの実現のために職員も新たなコンセプトに基づいた活動の在り方の理解を深めながら挑戦しています。 今年度再考された、新たな活動内容がもたらす効果の検証が求められます 今年度は、居心地の良さを追求してきた支援の在り方を見直し、曖昧だったコンセプトの明確化とそれに基づく活動内容の見直しが行われました。それらについては利用者及び家族にも周知され、利用者の自立度と生活意欲の向上を目指しています。職員へはそれらの意味の理解・浸透を図り、支援の質の向上を目指しています。今後、この取り組みが利用者や家族、職員にとってどのように作用し変化していくのか、定期的な確認と必要時の修正を行い、事業所が目指す支援のあり方を実践として定着されることが求められます。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

8	評価項目8 【自立訓練（生活訓練）】利用者が自立した生活を地域で送ることができるよう、日常生活の訓練や生活についての相談等の支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇)																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 利用者が訓練する意欲を持てるような取り組みを行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. サービス期間内に目標とする力を身につけることができるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 自立した生活に向けて、利用者一人ひとりに応じた日常生活訓練等を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. サービス終了後の生活環境(住居及び就労先等)を想定し、支援を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 地域で安定して生活することができるよう、サービス終了後も相談等の支援や関係機関との調整を行っている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 利用者が訓練する意欲を持てるような取り組みを行っている	○非該当	●あり ○なし	2. サービス期間内に目標とする力を身につけることができるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	3. 自立した生活に向けて、利用者一人ひとりに応じた日常生活訓練等を行っている	○非該当	●あり ○なし	4. サービス終了後の生活環境(住居及び就労先等)を想定し、支援を行っている	○非該当	●あり ○なし	5. 地域で安定して生活することができるよう、サービス終了後も相談等の支援や関係機関との調整を行っている	○非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 利用者が訓練する意欲を持てるような取り組みを行っている	○非該当																	
●あり ○なし	2. サービス期間内に目標とする力を身につけることができるよう工夫している	○非該当																	
●あり ○なし	3. 自立した生活に向けて、利用者一人ひとりに応じた日常生活訓練等を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	4. サービス終了後の生活環境(住居及び就労先等)を想定し、支援を行っている	○非該当																	
●あり ○なし	5. 地域で安定して生活することができるよう、サービス終了後も相談等の支援や関係機関との調整を行っている	○非該当																	
	評価項目8の講評 自宅訪問によるニーズの抽出で目標を明確化し、生活の基盤づくりの支援を行っています 自立訓練での自宅訪問は、地域で暮らす利用者の生活が見えやすくなるため、ニーズも把握しやすくなります。快適かつ衛生的な部屋での生活を維持するために、例えば収納スペースが考えられない方に対してはパソコンで一緒に収納グッズの検索をしたり、綺麗な状態をイメージできない方に対してはモデルルームの写真を見て頂いたり、部屋の工夫や掃除の仕方など一緒に考えながら行うことで、地域で暮らす基盤づくりの支援をしています。 利用者自身が2年後の自分の姿を思い描き、日々活動できるよう支援しています 買い物や金銭管理など社会生活の自立度評価指標に沿った支援を行うために、例えば調理プログラムでは2年後の理想の自分を思い描き、そうなるためにはどうしたら良いか、期間毎の目標を設定しながら支援を行っています。利用者には具体的な目的意識を持って、目指す自分の姿をイメージして頂きます。その上で自らが活動に取り組む自立支援は、利用者個々の意欲が向上し、利用者の主体的な活動により生活が活性化することを実感されています。更に今後、新たなコンセプトのもと新しい自立支援プログラムの確立のための検討が進められています。 検討調整中である自立訓練独自のプログラムの確立と成果が期待されます 現在のプログラムは「筋カトレーニング」「ソフト筋カトレーニング」「軽運動」「脳トレーニング」「創作的活動」「清掃」「フロア」のカテゴリに分類して企画されていますが、新しいコンセプトに基づくプログラムの整備は生活介護が先行し、自立訓練独自のプログラムの展開は2年間位じっくり時間をかける予定としています。それらが整備確立され、新たなプログラムによる支援の成果に期待すると共に、実践と検証を繰り返されることが期待されます。																		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新たなコンセプトを全職員に浸透を図り、個別支援の充実や生活の活性化を図るプログラムとサービス体制の構築に注力しています
	内容	今年度、事業特性を踏まえて新たなコンセプトを掲げて、個別支援の充実や生活の活性化を図り、より利用者の自立を支援するというサービス方針への転換とサービス体制の構築に注力しています。例えば新たなコンセプトに基づいた活動プログラムやアセスメントシートなどの見直しと、それらを提供する職員のサービス体制の再構築に取り組んでいます。このような取り組みを通じて、全職員とコンセプトの考え方や目的が共有され、利用者自身が必要と思うプログラムを各専門職が専門知識を入れて支援に取り組むなど、サービス方針の転換を図っています。
2	タイトル	個別支援計画やアセスメントの見直しを行い、心身機能の活性化や就労に向けた意識化が図られるよう支援の方向性の再検討が行われています
	内容	個別支援の充実や生活の活性化を図り、より利用者の自立を支援するというサービス方向の転換を目指して、アセスメントシートやプログラムの見直しなどのサービス体制の再構築に取り組んでいます。自立訓練では計画的に自立訓練に取り組めるよう行動プランを利用者と一緒に考え、アセスメントシートも体調・生活面、コミュニケーション面、作業理解面、作業集中力面の4カテゴリーをアセスメントし、就労に向けた意識化を図っています。生活介護もプログラム内容の見直しから心身機能の活性化が図られるよう個別支援計画の見直しが行われています。
3	タイトル	『利用者の健康寿命を強く意識した支援』を念頭に置いた支援プログラムの再考により、利用者の思いの実現に向けた支援に取り組んでいます
	内容	利用者が健康で主体的に生活できることを目指し、筋力トレーニングや脳トレーニングなど今年度からの活動内容が再考されました。情報提供の掲示板には健康に関する内容が多く、利用者本人が健康に対する意識が向けやすいようにしています。月に一度の看護師による『ナースの時間』では都度テーマを掲げて健康についての勉強会が行われています。利用者が健康な状態で生活し続けることができるように、看護師や栄養士による定期面談で健康相談ができるようにし、日頃から利用者の体調に留意すると共に健康寿命を強く意識した支援が行われています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	地域に求められる事業を展開していくために、コンセプトを明確にしたうえで地域への情報発信の工夫をしていくことが期待されます
	内容	自立訓練に加え、障がい者の在宅生活を支援していくための生活介護事業を行っており、2種類のパンフレットを作成して情報提供をしています。現在プログラムの内容の見直しに伴い、新たなパンフレットの作成に取り組んでおり、作成後改めて相談支援事業所や医療機関、訪問看護事業所等への配置依頼やホームページの更新を考えています。事業所課題としても地域に求められる事業展開の明確化をあげていることから、事業コンセプトを明確にした上で、家族・関係機関・地域に対し支援の方向性を伝え、共有できるような情報発信の工夫が期待されます。
2	タイトル	コンセプトに即して再考された活動内容の取り組みにより、利用者個々が目指す自立に向けた支援の充実と、成果の検証が期待されます
	内容	利用者が目指す生活を実現するために、健康寿命を強く意識したプログラムの再考など新たな取り組みが行われています。この新しいコンセプトに基づく活動、支援を定着させることで利用者の思いの実現とスタッフの意識及び質の向上を目指しています。今年度はその導入期であり、1年後、2年後、この新たなコンセプトがどのように根付き、その結果利用者と職員にどのような成果をもたらすのか、様々な角度からの検証する仕組みを構築することと、さらなる支援の充実に向けた検討を重ねられていくことが期待されます。
3	タイトル	家族や利用者支援の関係先と、新たなプログラムやアセスメントの考えなどについて相互理解を深めていくことが期待されます
	内容	利用者自身が自立して社会生活が継続できるように、コンセプトに基づいた個別支援の活性化のために支援員及び看護師と栄養士を含めた全職員が新たなプログラムの展開や支援計画とモニタリング、アセスメント評価の見直しをすることで、利用者の自立を段階的に支援するようにしています。今後もこれらのサービス体制を強化するためには、利用者支援の協力者である家族や利用者支援の関係先と、新たなプログラムのコンセプトやアセスメントの考えや方法などについて互いに理解を深めて行くことで、今後のさらなる協力体制づくりが期待されます。